

■H31.01.04 市長定例記者会見内容

日時 平成31年1月4日（金）午後2時～3時15分

場所 庁議室

出席 市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、企画調整課長、交流観光課長、市長公室長
酒田記者クラブ 6社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報）

■内容

市長／あけましておめでとうございます。酒田市と記者クラブの皆さんは、市の行政情報を発信するため、パートナーのような存在と認識している。今年もよろしく願います。

1. 酒田市とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社の連携協定締結について

1月20日、酒田市とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、地方創生及び産業・交流都市づくりに資するため、連携協定を締結します。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、企業の社会貢献活動として地方創生支援を全国的に進めており、県内での連携協定締結は、山形県、山形市、南陽市に次いで4例目となります。

酒田市とは、主に、共生社会の推進や観光振興・交流人口の増加に関する分野での連携を考えており、オリンピック・パラリンピックホストタウン事業や共生社会の実現に向けた心のバリアフリーの推進事業として、障がい者スポーツの講演会や体験会、ユニバーサルマナーや障害者差別解消法の対応・事例紹介セミナーなどを連携して進めていく予定です。

第一弾として、1月20日（日）に連携事業として「パラスポーツと心のバリアフリー&ニュージーランドフェア」を開催します。

このフェアでは、あいおいニッセイ同和損保株式会社所属デフサッカー選手の松元卓巳氏と先日「平成30年度輝けやまがた若者大賞」を受賞された一般社団法人山形バリアフリー観光ツアーセンター代表理事 加藤健一氏による「パラスポーツとバリアフリー観光トークセッション」を行うほか、パラスポーツ「ボッチャ」の体験コーナーや義肢体験・高齢者疑似体験の提供、市内の高校生や酒彩倶楽部、ホテルリッチ&ガーデン酒田とコラボしたニュージーランドの食べ物を試食販売するコーナーなどを企画しています。

東北公益文科大学の学生もボランティアスタッフとして参加する予定で、共生社会とオリンピック・パラリンピック、パラスポーツ、ニュージーランドを楽しく学ぶ機会になると思います。

午前 11 時 30 分からのパラスポーツの体験コーナーや食のブースだけの参加も可能ですので、ぜひ、お子さんと一緒に多くの方からおいでいただきたいと思います。

協定に関しては、さまざまな分野での連携を盛り込んでいる。

記者／損保会社と産業振興・観光振興に関する協定はめずらしい。どういう観点か。
市長／この協定に関して、市は受け身。同社の CSR の一環で、自分たちの持っているノウハウや資産を地方創生に役立てたいということで、さまざまな自治体に呼び掛けているようである。その中でも得意としているのが、障がい者支援のようである。同社と話をする中で、特にパラリンピックに関心があるようだった。本市がホストタウンであるニュージーランドは、共生社会に関しては先進国。この点で、市と同社、お互いのニーズが合致したようである。市としては、あいおい損保さんがどのようなサービスを提供できるか未知数。パラリンピック後も、交流人口増加、中小企業支援などの問題に関し、全国規模の損保会社の力、ネットワークなどを生かした支援・助言を期待しているところである。

2. 山形市・酒田市・荘内銀行 共同企画「やまがた冬の桜まつり～海の酒田・山の山形～」の開催について

1 月 26 日（土）、酒田市と山形市が主催する「やまがた冬の桜まつり～海の酒田・山の山形～」を東京都武蔵野市コピス吉祥寺ふれあいデッキにて開催します。

これは、今年度から始まった本市と荘内銀行との人事交流を通じて企画されたもので、以前から荘内銀行と人事交流を行っていた山形市とも連携し、荘内銀行も交えた三者連携による初の合同観光 PR イベントを開催することとなりました。

東京都武蔵野市は本市の友好都市であり、また、コピス吉祥寺には荘内銀行吉祥寺支店と本市の首都圏情報発信拠点である酒田市役所東京吉祥寺テラスがあることから、同施設のふれあいデッキを会場に観光物産 PR を行います。

当日は冬に咲く桜「啓翁桜」を展示し、ほのかな香りと薄桃色の花びらで、来場者の皆様から一足早い春を楽しんでいただくほか、酒田市と山形市の特産品をセットにした物販販売として、塩辛と日本酒の「海と山の晩酌セット」、雪若丸とつや姫の「やまがたのお米食べ比べセット」や、やまがた名物の玉コンなどの販売を行います。

また、1,000 円以上お買い上げの方先着 200 人の方につや姫 2 合のプレゼントも行いますので、ぜひ、多くの方からおいでいただきたいと思います。

記者／山形市と酒田市合同の企画はあまりなかったと思うが初めてか。

市長／多分その通り。

記者／きっかけとしては、荘内銀行との人事交流だと思うが、東京支店との交流という認識でよいか。

市長／酒田市役所東京吉祥寺テラスでは、観光 PR の拠点的な役割を担ってもらっている。

記者／荘内銀行が扇の要となるか。

市長／その通り。

記者／なぜこの時期なのか

市長／春、秋は、武蔵野との交流事業をやっている。冬は手薄な時期。お酒の時期としても冬はいい。空白期間で開催するという認識。

3. 第 32 回酒田日本海寒鱈まつり、酒の酒田の酒まつりについて

1 月 26 日（土）、27 日（日）の 2 日間、第 32 回酒田日本海寒鱈まつりを開催します。

酒田の冬の風物詩として開催しており、多くの皆さまから愛されているまつりです。毎年恒例の「味の暖簾街」では、玉こんにゃく、おもち、弁慶めしなどを販売しています。「なかまち冬の市」では、地域の特産品や農産物加工品などの露店が並び、酒田の冬の市の風情を感じていただけます。『食の都庄内』親善大使「寒鱈フェスタ」では食の都庄内が誇る豪華 4 人の料理人がスペシャルな寒鱈料理を数量限定で販売します。

酒の酒田の酒まつりは今年で 4 回目。酒田と遊佐の新酒などが、いち早く一堂に楽しめるとあって、年々多くの方々にお楽しみいただいております。また、今年も秋田・酒田交流事業として、秋田県の方々に参加していただき、特産品の販売やきりたんぼ鍋の販売も行ないます。

また、今年も、IWC2018「SAKE部門」が山形県で開催されたことを記念して、IWCメダル受賞酒コーナーも設けます。酒田・遊佐のものだけではなく、秋田県や同じ「酒」の文字がつく自治体である千葉県酒々井町の蔵の酒も合わせて、呑み比べを楽しんでいただければと思います。

価格は、有料試飲は 1 杯 100 円です。また、酒の酒田の酒まつりでは、寒鱈まつり実行委員会で販売している前売り券についているお買い物券も使用できます。

そのほか、試飲でお好みのお酒が見つかったら、四合びんでの販売もしておりますので、お土産に持ち帰ることも出来ます。

ぜひ酒の酒田の酒まつりにお越しいただき、あつあつの寒鱈汁とおいしい日本酒のコラボレーションをお楽しみください。

質疑応答無し

◎フリー質問

【市長選について】

記者／12 月議会で出馬表明し、9 月投開票となったが、次期市長選への思いを。

市長／予算編成作業でうまくいったもの、そうではないものがある。その中で、日本遺産、

ジオパークなど、旗印となるものはある程度やった認識がある。しかし具体的な事業に関しては、まだまだ。山居倉庫、駅前、旧割烹小幡、日和山周辺の整備など、レールに乗って進んでいないもの若干ある。LCC 就航もこれから、各学校へのエアコン整備もこれから。また国で進めている保育料の無償化についてなど、自分がやらなければならないこともまだまだある。もし自分が辞めるとなれば、停滞し、前には進まないと確信し、12月議会で出馬表明した。自分のブログでも書いたが、4年では自分のやりたいことに実をつけるまではいかなかったと思ったから。

記者／支援者、党、組織へのお願いはこれからか

市長／その通り。後援会組織はあるが、国会議員、県会議員など他の方の後援会組織にかなり協力してもらっている。市のOB、組合関係の皆さんの協力も得て、選挙に迎えればいいと考えている。

【中高一貫校に関して】

記者／県から昨年末までの回答を求められ、酒田、遊佐町反対。鶴岡、三川、庄内は賛成。これについてどうか。

市長／中高一貫教育校自体に関して否定するものではない。具体的な設置場所、設置校についての話が今回出たわけだが、鶴岡田川地区の高校再編とセットになっていることに関し「これはおかしい」と思っている。教育論だけの問題ではないということを、県教育委員会に認識してほしい。議会で「ツインシティ」という言葉を使ったが、酒田と鶴岡は、これまでそれぞれの強みを生かしてきた。どちらかが突出するような教育はすべきでないと思う。今回の中高一貫校の問題は、これまでの庄内の歴史風土をがらりと変えてしまうものであると危惧している。まちづくりは人づくりであり、人づくりは教育であり、学習指導、いい大学に行くかだけでは教育は済まない。酒田・鶴岡が両輪として成り立つ仕組みをちゃんと考えてほしい。教育に関しては、文化・芸術、産業振興、企業の立地などに影響を与えてくる。財政にも影響大。中学校の運営にもお金がかかる。設置場所は大きな問題。安易に鶴岡南高校にくっつけるという結論を出してほしくない。地元の意見を聞く姿勢をもっと持ってほしいと思う。市民、教育委員会、市議会の意見を聞いた上で、反対という意見を述べた。県の教育委員会からは、もっと地域に寄り添った判断をしてほしい。知事の言う「血の通った行政」を教育にも反映させてほしい。最終的には県教委が決めることだが、高校再編の話とセットだから、鶴岡側の懇談会は県の費用でやった。酒田側は市の費用でやっている。これも少しおかしいと思う。今回の市の回答は重いものとして県に捉えてほしいと思っている。

記者／酒田市は高校再編に関してどこよりも早く取り組んでいるわけだが。

市長／遊佐高校、庄内総合高校も残っていることを考えると、教育に関する住民の思いの重さについては、県も認識しているのではないかと思う。

【旧割烹小幡について】

記者／12月の段階で1社応募があったが取り下げとなった。今後の運営予定者の決め方、応募取り下げの理由、今後のスケジュールなど聞きたい。

市長／事業に関し、全て行政が費用負担して行うのは厳しい。民間の企業に入ってもらい、収益をあげて賄ってもらおうという考え方。公益大の高谷教授の考え方を受け入れ、外観を残し、内部を改修するというコンセプトで公募した。しかし実際に事業を行う業者にとっては、収益を上げられないリスクを感じており、現状の施設のままで、多くのお客さんに来てもらうのはむずかしいと考えているようだった。結果として、応募者ゼロになってしまった。しかし小幡再生をやめるという考えはない。地元の方から寄付をもらっていることもあり、残すということに真摯に取り組んでいかなければならない。今後はどうすれば小幡で収益を上げられるのかを検証していきたい。洋館と母屋の構成についても、再考する可能性がある。あまりコストをかけずに集客できるやりかたを再検討したいと思う。仕様書を作り直して再公募となるので数か月の時間がかかる。ただし飲食店であること、再生を行うということに関しては譲れない点である。おそらく3か月程度遅れると思うが、地方創生推進交付金を受けているため、来年度発注しないといけない。なるべく早く公募して、来年度中には工事の契約までもっていきたいと思っている。もうひとつ、小幡だけの問題ではなく、日和山周辺に人が来るようにしないといけない。日和山公園を市としてどうしていくのかについて、同時進行となるが、公園利活用方針についても明確にしていきたい。

記者／日和山公園の利活用については、地方創生推進交付金は使えない？

市長／難しいと思う。公園整備に関しては、ひょうたん池、港側の駐車場整備などを行ってきている。加えて光丘文庫も何とかしたい。外国クルーズ船の乗客が市内に来た際、公園に興味を持つ外国の方にとって、日和山周辺には石碑、梅林など魅力的なものがあると思う。それを生かせれば。

記者／日和山公園の利活用について、下日枝神社なども含むのか。

市長／山王森を守る会が解散する。荒れさせるわけにはいかない。守り育てる拠点、周辺整備の拠点に、旧割烹小幡がなればと思う。

記者／小幡裏の神社の整備も重要になってくるか。

市長／日枝神社、皇大神社など一体となった魅力があると思う。長期のスパンで見て日和山全体を魅力あるエリアにしていきたい。その中心が小幡。どこまでが民間、どこまでが行政かのすみ分けも考えたい。応募者ゼロでとん挫、解体は何としても避けたい。記者／公益大高谷教授の案からは大きく外れることはないか。

市長／大きく外れることはないと思うが、残すところとそうでないところの見極め、どこまで譲れるのかをすり合わせてやっていきたい。

記者／洋館のレストランは外せないと思う。母屋の食育交流館については、中身の変更あるのか。

市長／またサウンディング調査は行うが、洋館についても変更はあり得ると思う。商売が成り立たないということではダメ。母屋についても変更提案も受け入れる余地を残して、自由に提案を受け入れる必要がある。ただし、小幡を残すというコンセプト自体を崩すわけにはいかない。文化財の保存と、商売の両立が実現する仕様書を作っていく。

記者／利用料が高かったイメージがあるが、辞退の理由になったか

市長／それはないと思う。お客さんが入らなければ負担は増えると思うが。そういう面では、使用料見直しもタブーではないと思う。

記者／鶴岡公園、大学が来たことをきっかけに大胆に変えた。日和山ももっと大胆に整備することは考えられないか。

市長／公園の下、港側に市の倉庫があるが、別の場所にあってもいいもの。そういうことも含めて整備を検討していきたい。神社や民間の用地、宅地まで買収してやるということまでは現時点で考えていない。山居倉庫、旧商業高校跡地は市の土地なので、自由にやれると思う。日和山公園、山居倉庫、駅前が全部一時期に来ているので、財政的に大丈夫かという思いはある。保育料無料化に関しても、市の財政負担出てくる。そういうものが、ハード面に影響を及ぼす可能性もある。

記者／小幡の価値について、残す意義についてどう思うか。

市長／おくりびとの舞台になった。赤茶けた施設の外観がイメージとして強いと思うが、そのまま残したいと思っははいない。明治 27 年以前の建物である。酒田の震災も乗り越えてきた建物。往時は現在と全く違う配色の外観であった。高谷教授の調査結果を踏まえ、地域のシンボルとなる建物として再生は必要と判断した。文化財としての保存は違うと思った。酒田の街、火事でさまざまなものがなくなったが、小幡や本間家旧本邸など、残ったものを再生したいという思い。

記者／光丘文庫については。

市長／あの建物を市民にもっと見てもらい、観光客の皆さんに見てもらうような取り組みを行いたい。文化財として耐震補強をやるとなると 10 数年以上かかる話。1 期目の公約として、光丘文庫の資料を痛まないように移動した。今後は建物がこれ以上痛まないように、知恵を出し合って何とかしたいと考えている。日和山の魅力のひとつとして。ただしお金のかかる話なので、全体の懐事情を見ながら。

記者／使われなくなって 2 年以上経つ。使われない建物は傷みやすい。優先順位は。

市長／思いとしては小幡と光丘文庫は同じ順位。ただし小幡については公募もしている。光丘文庫については、まだ動きはない。

記者／光丘文庫については、市民が中に入れるようにしたいということか。

市長／昭和天皇が皇太子時代に立ち寄った部屋もある。見てほしい。一般的に公開するのかどうかも含め、なるべくお金をかけずに早くやりたい。

記者／本間光丘は公益の祖。その名を関する光丘文庫がこの状態なのはおかしいと思う

が。

市長／その通りだと思う。

【年頭あいさつに関して】

記者／市職員を対象とした年頭訓示の中で、これまで聞きなれない「子育て」という言葉を述べていたが、どういう意味か

市長／保育料の軽減や「ぎゅっと」の設置など、これまでの子育て支援策は、親に対する支援がメインだったと思う。それも大事だが、子どもたちがしっかり育つため、子どもたちを対象にした事業を行いたい。子どもたちが自ら学べるような環境整備など。子どもたちが自ら育っていきえるような事業。子どもたちが育つために家庭が大事と認識しながら、これまで家庭に踏み込んでいなかった。子育て、子育ての両面で事業を展開する必要があると思う。新年度の市役所の体制整備についても考えていかなければならない話。健康福祉部だけの話ではなく、他のセクションも巻き込んで取り組んでいかなければならないと思っている。

記者／以前からそのような思いは持っていたのか。何かきっかけがあったのか。

市長／もやもやとしたものは感じていた。保育園の整備や保育士の充実などだけで子どもは育つという考えには違和感があった。お母さんが働ける環境も大事なのはわかる。しかし、昔はそんな環境なくても子どもは育ってきた。教育を与える側だけではなく、子どもたち自体が育つことが重要ではないかと思っていた。現状、親も働かなければならず、子どもは預けられることが多い。子育てについて「つらい」という思いを持つ親が増えている。そんな状況で本当に子どもが育っていくのか疑問を持っていた。保育料を無料にすれば子育てが成り立つのかは疑問である。地域社会がこれから成り立っていくのか、自分の中でも答えは出ていないがそういう思いは持っている。教育委員会の教育大綱では「人間力」を重視している。

記者／コスト、効率だけではなく、育っていくために、ということか。

市長／酒田南高校が面白い取り組みを行っている。子どもたちの意欲を掻き立てるような取り組みを行っていると思う。社会的には思っている。社会の担い手としての子どもたちにどう育ってほしいか、疑問への答えの一端があるのではないかと考えている。

以上